

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2296900075		
法人名	医療法人社団木野記念会		
事業所名	グループホームつどい 1階ユニット		
所在地	静岡県磐田市一色25-1		
自己評価作成日	令和5年6月19日	評価結果市町村受理日	令和5年9月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan1=true&jiryoNoCd=2296900075-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	令和5年7月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

午前は施設周辺の散歩、畑で作物の様子を観ながら収穫。お日様の恵みをしっかりと浴びて一日がスタートです。外の空気に触れること、身体をしっかりと動かすことを生活の中心としています。コロナ禍で外出の機会も激減しましたが、春の桜お花見から外出活動を再開。梅雨時期には、お寺まで紫陽花見学にも出掛けることが出来ました。今後も感染状況に注視しながらではありますが、コロナ以前のように「季節を感じる」ことをテーマに、季節ごとの花木鑑賞や地域交流会(流しそうめん・焼き芋・芋煮会)等の計画を進めて参ります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

平成27年のオープン以来、管理者とユニットリーダーの盤石な体制と介護福祉士資格取得7割、実践者研修受講者7名という職員構成で、事業所が旨とする利用者本位の暮らしの実現にブレがありません。壮健だった利用者も介護度が上がるなか、全員で欠かさずおこなう朝の散歩はユニット間の連携もスムーズで、食事介助や津波を想定した垂直避難にも活かされています。コロナ禍で断念していた地域交流イベントも企画を進め、開設当初から歩みを共にする家族が散歩コースの歩道未整備部分について市町に申し入れしたり、季節の花を毎月届けてくださるなど、心強いサポーターとなって事業所を支えています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設の理念を、玄関や2Fエレベーターホール、各階のスタッフ室に掲示。理念の実現に向けて努力している。	入社時のオリエンテーションで説明し、掲示することで意識づけるとともにフロアごとの年度目標、月間目標を通して実践につなげています。月間目標は反省をもって新たな目標を設定し、管理者統括のもとユニットリーダーが中心となってマネジメントサイクルにのせています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染予防対策の為、地域との交流・接触を控えていたが、今後は感染状況を踏まえて法人と相談の上、以前のような交流会等を計画していく。散歩時時刻によっては顔見知りの方が出来た。	コロナ禍で断念していた恒例の地域交流会(流しそうめん、芋煮会)は今年度より再開としています。5類感染症となってもリスクは変わらないため、状況を見極めた判断のもとでの実行となりますが、地域とつながりながら暮らし続けるための努力を惜しまない姿勢があります。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	新型コロナウイルス感染予防対策の為、地域との交流・接触を控えていたが、今後は感染状況を踏まえて法人と相談の上、以前のような交流会等を計画していく。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議も再開し、施設の活動状況等をお知らせしている。頂いたご意見等を今後のサービス提供に活かしていきたい。	5月より通常開催として自治会長、磐田市・地域包括支援センター職員、家族、職員の参加が進められています。入居状況、行事と研修など2ヶ月間の事業所運営の詳細を報告し、参加メンバー全員による忌憚のない意見交換がなされていることを議事録から確認しました。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月入居状況の報告。二ヶ月に一度の運営推進会議の開催。新型コロナワクチン接種に関しては、市の対策班と連携して実施している。	運営推進会議には毎回市と地域包括支援センター職員の出席があり、貴重な意見がもらえています。今年度4月より介護相談員の訪問が再会されており、月に一度、午前中1時間半ほど利用者の話に耳を傾け、改善等必要な事柄があれば管理者へ報告があがっています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体的拘束適正化検討委員会の開催。委員会や身体拘束廃止フォーラムの動画視聴にて理解を深めている。	委員会ではユニット入口の施錠について、離設のリスクと職員体制、利用者の心身の健康、開放の利点と欠点等、あらゆる可能性をリストアップした後、閉塞感に着目し「開放」を基本とした結果に至っています。また、慢心から生じる言動がないかセルフチェックシートで省みています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人で開催する勉強会に参加、理解と防止に努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人で開催する勉強会に参加。現在成年後見制度を利用されている入居者があり、保佐人とも連携して支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に重要事項説明書・契約書の説明。同意を得て、一部はご家族様へ交付している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の開催にて報告。苦情・意見箱を設置し窓口を明確にしている。	運営推進会議開催の案内と議事録は全家族に配付し、「つどいだより」「今月の一枚」を隔月で送付しています。歩道が未整備状態である利用者の散歩コースについて市や自治会に申し入れるなど、開設当初から事業所のよき理解者として見守り続けてくださる家族もいます。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日に30分程度、様々な内容の会議を開催している。月に一度リーダー会議、年に一度職員の面談を実施している。	開設以来管理者、ユニットリーダーは変わらず、5年以上の勤務、介護福祉士資格取得7割、実践者研修受講者7名という職員で構成され、毎朝欠かせない散歩タイムや食事介助におけるユニット間の連携もスムーズで、事業所が目指す利用者本位の暮らしにブレがありません。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則に準じて、働きやすい職場環境作りに努力している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員教育チェックリストを定期的に確認。法人開催の勉強会に参加を促し、認知症介護実践者研修等外部への研修参加を計画している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在は行われていない。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談・アセスメントの実施。ご本人様とご家族様、担当ケアマネからの情報収集も行っている。ご家族様から「ご自宅での生活習慣について」の記入にご協力頂き、意向を踏まえたケアプランの作成を心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	いつでもご相談頂けるよう説明をし、可能な限り時間外での対応や訪問も受けられるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談・アセスメント後、施設担当医師や看護師・OT・栄養士等と相談し、その方に合ったサービス提供が出来るよう努力している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	施設理念のもと、個人を尊重し、支え合いを大切に生活支援に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様には、つどいだよりや今月の一枚等発行し、生活の様子が分かるように報告している。地域交流会の開催も検討している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所(美容院)やご家族様との交流が継続出来る支援を心掛けている。	玄関先での物品受け渡し限定や、実感のないオンライン面会でしたが、5月より検温、手指消毒、マスク着用を条件にエレベーターホールにて解禁となり、久しぶりの対面での再会に喜びもひとしおです。知人や隣近所の友人も訪れ、「元気で良かった」と安堵の声が聞かれています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事テーブル席を工夫して良好な関係作りに努めたり、外出(散歩)時のグループ分けにも配慮している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	電話にて状況確認をしたり、入院(入所)先への訪問をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	聞き取りによる意向と日々の様子を照らし合わせて、言葉にならない想いを感じ取り、都度意向の確認をするように努めている。	意向の把握が難しい利用者には、認知症への理解を深める機と捉え「ひもときシート」を活用しています。朝と午後の申し送りがミーティングやモニタリングの場となり、1、2階合同で協議を重ね、管理者も参加して解決への糸口を探り、話し合いの内容は回覧で共有されています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人からの聞き取りや、家族・ケアマネからの情報をすり合わせて、今までの暮らしの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	包括的自立支援プログラムやセンター方式、ひもときシートの活用でアセスメントを実施している。計画作成者だけでなく各担当職員もアセスメントを行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日に30分設定している会議にて個別援助計画を発表、必要時にモニタリングや介護計画の見直しを行っている。	生活機能向上連携加算を算定し、訪問診療時の医師と連携して自立支援・重度化防止に資するケアを推進しています。職員一人が3名程を担当してモニタリング～アセスメントをおこない、日々の申し送りで報告される体調変化に応じて現状に即した介護計画が作成されています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録マニュアルに沿って個別記録を記入。また申し送り事項を事前にも確認することで情報収集を行い、日課チェックリストで実践に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個人の体調・状態であったり、本人の希望に応じて生活支援している。受診や外出等も可能な限り対応している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域包括・市役所・自治会等との意見交換やボランティア団体による行事の計画、地域住民へ地域交流会の呼びかけを計画している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望を重視し、かかりつけ医師の継続と受診の付き添いを行い、緊急時の対応について予め主治医に確認をしている。	かかりつけ医を継続する利用者が3名ほどいて、家族による受診支援を基本としていますが、無理な場合は管理者が代行しています。隣接する法人内の協力医は月2回、毎週5～6名の訪問診療があり、週に一度来所する法人看護師との連携体制も整い、安心の環境にあります。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設施設の看護師が週1日程度訪問。日常的な健康管理や状況に応じた連絡・相談体制が整い、24時間体制で連携出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居可能な状態か病院や家族と情報を集約し、担当医師や看護師と相談。今後の受け入れについて検討している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に重度化した場合の対応指針と緊急時の延命治療要望について家族に説明し、確認・同意を得ている。	契約時は『重度化した場合の対応に係る指針』をもとに「看取りを目的とした特別なケアはおこなわない」と考え方を説明しています。医師により回復の見込みがないと判断された場合は、本人や家族が望む形での終末期の過ごし方について、他施設の紹介を含め話し合っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内で行われる救急法講習会に参加している。緊急時の対応マニュアルは、いつでも見られるようにスタッフ室内に用意している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回の避難訓練以外にも、津波に備えて、階段を使用して入居者を二階へ誘導する訓練を全職員が参加できるようにしている。地域防災訓練では、地域住民が施設の屋上に上がり活用している。	津波から身を守るには時間との闘いであり、年2回の訓練だけでは変化する利用者のADLに対応できないため、毎朝散歩後は1、2階の相互協力を検証して迅速な垂直避難に備えています。アルファ米やお粥、ビスケット、羊羹等、備蓄品も2階倉庫に一週間分を確保しています。	BCPは策定されていますので、今後は運用しながら見直しと改善が図られることを期待します。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重した言葉かけや対応に配慮している。	排泄や入浴等、利用者のプライバシーに直接関わる介護職が「尊厳をおびやかさないために理解し、配慮すべきこと」を研修に取り入れています。利用者一人ひとりの感覚で捉え方も異なるため、どのような生活を望んでいるか理解することが重要であることを学んでいます。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の訴えに耳を傾け、望みを汲み取り、できる限り意に沿えるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人のペースに合わせた対応を心掛けている。趣味・嗜好活動の提供は、同法人内の施設職員とも連携して、個人の希望に沿った支援ができるように検討している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望にて美容室への付き添いや施設では定期的に理美容を行っている。季節ごとの衣替えは、ご家族とも相談しながら、本人の好みを尊重した調整をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立表を掲示し、嗜好に合わせて個別の対応もしている。食事の支度・片付け等は出来る範囲で職員と一緒に行う。週二回の料理人によるお楽しみ弁当も充実している。毎月、おやつ時に旬のフルーツ提供をしている。	畑で収穫したキュウリやオクラ、ゴーヤ、ミニトマトの他、地元特産の海老芋が食卓に登場しています。お楽しみ弁当は土用の鰻やクリスマスチキンなど、プロが腕を振るったメニューで利用者の目と舌を楽しませ、誕生日は当日にケーキとバースデーカードでお祝いしています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	併設施設の管理栄養士と月一回栄養ケアに関する会議を開催している。食材は栄養バランスの整った宅配業者を利用。自施設の畑で収穫した新鮮野菜も。食事・水分量のチェックや個別の補食も管理している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	近隣の協力歯科医院に月に一度訪問し、歯科医師から口腔衛生に係る指導・助言を頂いている。併設施設の歯科衛生士からも指導・助言を受け、口腔内の確認・口腔ケアの実施をしている		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を活用して個別援助の実施。本人や家族の希望に沿った対応をしている。	ベッド上での交換が必要となった人もいますが、日中はトイレでの排泄を目標として職員2人介助で支援している人もいます。夜間は肌触りよく吸収量の多いパッドを検討したり、睡眠状況を見てトイレへ誘導したりと、利用者のパターンに合わせ安眠を優先としています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝の散歩・体操にて身体を動かし、便秘予防に努めている。個別に合った下剤調整・メンタ湿布の対応をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個人の希望や予定・気分に合わせて、柔軟な対応をしている。	湯は一人ひとり入れ替え、「午後に入ると体力的につらい」「午前中なら機嫌が良い」「同性介助してほしい」など、本人の希望や体調に合わせて一日2~3名としています。拒否の強い人は動き出しのタイミングを見計らって誘い、その人が気持ちよく入れることを最優先としています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人の生活リズムに合わせて休息時間を設けている。就寝時間は本人の希望に合わせて対応をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人の内服薬管理、服薬表を療養記録に保管し、職員がいつでも確認できるようにしている。健康状態に応じて主治医と連絡を取り、医師の指示にて内服支援をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の負担にならない程度に、お掃除や食事の支度・後片付け・洗濯等、個人の役割をもって行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人や家族の要望に応じて対応をしている。現在、買い物はカタログをみて商品を選び、週一回の移動スーパーにて購入している。	散歩が日課となっていることは玄関に常備された帽子から一目瞭然で、継続にはユニット間の連携が欠かせません。外出も阻まれた3年間でしたが、春先から桜の名所巡り、医王寺の紫陽花観賞など見頃を狙い、グループに分け法人リフト車を駆使して全員が出かけています。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本は施設で管理をしている。希望される方は、本人・家族と相談し、同意を得て本人管理も対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話連絡を希望する場合は施設電話(子機)を使用して対応している。手紙のやりとりも個別に対応している。年賀状は入居者全員が家族や友人等に送れるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとのお花や入居者が手入れしている盆栽を置いている。ソファの設置にて心地よく過ごしている。	各ユニットに設置された空気清浄機と徹底した衛生管理で、クラスターの発生もなくコロナ禍を切り抜けています。玄関先に置かれた複数のベンチ、管理者が主となって維持管理する野菜畑、家族から贈られる四季の花々が事業所の穏やかな日々を物語っています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	本人の希望や気の合う仲間との関係にも配慮し、食事テーブル席を検討している。ソファの設置にて仲間との談笑、のんびりと過ごせるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前から使っていた物や馴染みの物、嗜好品や自身の作品を掲示して自分らしい部屋・環境作りに努めている。	ベッド、エアコン、カーテンが備え付けられ、衣類や寝具等は季節ごとに家族が入れ換えています。アンティーク調の家具で統一された居室や、心血を注いだ盆栽を持ち込み、自ら水やりと手入れをおこなっている人など、それぞれのこだわりが大切にされていることがわかります。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	床はバリアフリーで歩行器や車椅子は自由に移動が出来る。廊下・浴室・トイレ等に手すりは設置している。居室やトイレを分かりやすく表示したり、居室内を安全に動けるようにベッドや家具の配置をしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2296900075		
法人名	医療法人社団木野記念会		
事業所名	グループホームつどい 2階ユニット		
所在地	静岡県磐田市一色25-1		
自己評価作成日	令和5年6月19日	評価結果市町村受理日	令和5年9月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan1=true&jiryoynoCd=2296900075-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	令和5年7月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

午前は施設周辺の散歩、畑で作物の様子を観ながら収穫。お日様の恵みをしっかりと浴びて一日がスタートです。外の空気に触れること、身体をしっかりと動かすことを生活の中心としています。コロナ禍で外出の機会も激減しましたが、春の桜お花見から外出活動を再開。梅雨時期には、お寺まで紫陽花見学にも出掛けることが出来ました。今後も感染状況に注視しながらではありますが、コロナ以前のように「季節を感じる」ことをテーマに、季節ごとの花木鑑賞や地域交流会(流しそうめん・焼き芋・芋煮会)等の計画を進めて参ります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

平成27年のオープン以来、管理者とユニットリーダーの盤石な体制と介護福祉士資格取得7割、実践者研修受講者7名という職員構成で、事業所が旨とする利用者本位の暮らしの実現にブレがありません。壮健だった利用者も介護度が上がるなか、全員で欠かさずおこなう朝の散歩はユニット間の連携もスムーズで、食事介助や津波を想定した垂直避難にも活かされています。コロナ禍で断念していた地域交流イベントも企画を進め、開設当初から歩みを共にする家族が散歩コースの歩道未整備部分について市町に申し入れしたり、季節の花を毎月届けてくださるなど、心強いサポーターとなって事業所を支えています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設の理念を、玄関や2Fエレベーターホール、各階のスタッフ室に掲示。理念の実現に向けて努力している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染予防対策の為、地域との交流・接触を控えていたが、今後は感染状況を踏まえて法人と相談の上、以前のような交流会等を計画していく。散歩時時刻によっては顔見知りの方が出来た。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	新型コロナウイルス感染予防対策の為、地域との交流・接触を控えていたが、今後は感染状況を踏まえて法人と相談の上、以前のような交流会等を計画していく。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議も再開し、施設の活動状況等をお知らせしている。頂いたご意見を今後のサービス提供に活かしていきたい。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月入居状況の報告。二ヶ月に一度の運営推進会議の開催。新型コロナワクチン接種に関しては、市の対策班と連携して実施している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体的拘束適正化検討委員会の開催。委員会や身体拘束廃止フォーラムの動画視聴にて理解を深めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人で開催する勉強会に参加、理解と防止に努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人で開催する勉強会に参加。現在成年後見制度を利用されている入居者があり、保佐人とも連携して支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に重要事項説明書・契約書の説明。同意を得て、一部はご家族様へ交付している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の開催にて報告。苦情・意見箱を設置し窓口を明確にしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日に30分程度、様々な内容の会議を開催している。月に一度リーダー会議、年に一度職員の面談を実施している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則に準じて、働きやすい職場環境作りに努力している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員教育チェックリストを定期的に確認。法人開催の勉強会に参加を促し、認知症介護実践者研修等外部への研修参加を計画している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在は行われていない。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談・アセスメントの実施。ご本人様とご家族様、担当ケアマネからの情報収集も行って。ご家族様から「ご自宅での生活習慣について」の記入にご協力頂き、意向を踏まえたケアプランの作成を心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	いつでもご相談頂けるよう説明をし、可能な限り時間外での対応や訪問も受けられるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談・アセスメント後、施設担当医師や看護師・OT・栄養士等と相談し、その方に合ったサービス提供が出来るよう努力している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	施設理念のもと、個人を尊重し、支え合いを大切に生活支援に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様には、つどいだよりや今月の一枚等発行し、生活の様子が分かるように報告している。地域交流会の開催も検討している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所(美容院)やご家族様との交流が継続出来る支援を心掛けている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事テーブル席を工夫して良好な関係作りに努めたり、外出(散歩)時のグループ分けにも配慮している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	電話にて状況確認をしたり、入院(入所)先への訪問をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	聞き取りによる意向と日々の様子を照らし合わせて、言葉にならない想いを感じ取り、都度意向の確認をするように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人からの聞き取りや、家族・ケアマネからの情報をすり合わせて、今までの暮らしの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	包括的自立支援プログラムやセンター方式、ひもときシートの活用でアセスメントを実施している。計画作成者だけでなく各担当職員もアセスメントを行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日に30分設定している会議にて個別援助計画を発表、必要時にモニタリングや介護計画の見直しを行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録マニュアルに沿って個別記録を記入。また申し送り事項を事前にも確認することで情報収集を行い、日課チェックリストで実践に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個人の体調・状態であったり、本人の希望に応じて生活支援している。受診や外出等も可能な限り対応している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域包括・市役所・自治会等との意見交換やボランティア団体による行事の計画、地域住民へ地域交流会の呼びかけを計画している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望を重視し、かかりつけ医師の継続と受診の付き添いを行い、緊急時の対応について予め主治医に確認をしている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設施設の看護師が週1日程度訪問。日常的な健康管理や状況に応じた連絡・相談体制が整い、24時間体制で連携出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居可能な状態か病院や家族と情報を集約し、担当医師や看護師と相談。今後の受け入れについて検討している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に重度化した場合の対応指針と緊急時の延命治療要望について家族に説明し、確認・同意を得ている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内で行われる救急法講習会に参加している。緊急時の対応マニュアルは、いつでも見られるようにスタッフ室内に用意している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回の避難訓練以外にも、津波に備えて、階段を使用して入居者を二階へ誘導する訓練を全職員が参加できるようにしている。地域防災訓練では、地域住民が施設の屋上に上がり活用している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重した言葉かけや対応に配慮している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の訴えに耳を傾け、望みを汲み取り、できる限り意に沿えるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人のペースに合わせた対応を心掛けている。趣味・嗜好活動の提供は、同法人内の施設職員とも連携して、個人の希望に沿った支援ができるように検討している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望にて美容室への付き添いや施設では定期的に理美容を行っている。季節ごとの衣替えは、ご家族とも相談しながら、本人の好みを尊重した調整をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立表を掲示し、嗜好に合わせて個別の対応もしている。食事の支度・片付け等は出来る範囲で職員と一緒にを行う。週二回の料理人によるお楽しみ弁当も充実している。毎月、おやつ時に旬のフルーツ提供をしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	併設施設の管理栄養士と月一回栄養ケアに関する会議を開催している。食材は栄養バランスの整った宅配業者を利用。自施設の畑で収穫した新鮮野菜も。食事・水分量のチェックや個別の補食も管理している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	近隣の協力歯科医院に月に一度訪問し、歯科医師から口腔衛生に係る指導・助言を頂いている。併設施設の歯科衛生士からも指導・助言を受け、口腔内の確認・口腔ケアの実施をしている		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を活用して個別援助の実施。本人や家族の希望に沿った対応をしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝の散歩・体操にて身体を動かし、便秘予防に努めている。個別に合った下剤調整・メンタ湿布の対応をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個人の希望や予定・気分に合わせて、柔軟な対応をしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人の生活リズムに合わせて休息時間を設けている。就寝時間は本人の希望に合わせて対応をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人の内服薬管理、服薬表を療養記録に保管し、職員がいつでも確認できるようにしている。健康状態に応じて主治医と連絡をとり、医師の指示にて内服支援をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の負担にならない程度に、お掃除や食事の支度・後片付け・洗濯等、個人の役割をもって行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人や家族の要望に応じて対応をしている。現在、買い物はカタログをみて商品を選び、週一回の移動スーパーにて購入している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本は施設で管理をしている。希望される方は、本人・家族と相談し、同意を得て本人管理も対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話連絡を希望する場合は施設電話(子機)を使用して対応している。手紙のやりとりも個別に対応している。年賀状は入居者全員が家族や友人等に送れるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとのお花や入居者が手入れしている盆栽を置いている。ソファの設置にて心地よく過ごしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	本人の希望や気の合う仲間との関係にも配慮し、食事テーブル席を検討している。ソファの設置にて仲間との談笑、のんびりと過ごせるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前から使っていた物や馴染みの物、嗜好品や自身の作品を掲示して自分らしい部屋・環境作りに努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	床はバリアフリーで歩行器や車椅子は自由に移動が出来る。廊下・浴室・トイレ等に手すりは設置している。居室やトイレを分かりやすく表示したり、居室内を安全に動けるようにベッドや家具の配置をしている。		